

浜田部落有文書概要

1: 文書群番号	091007
2: 文書群名	浜田部落有文書
3: 出所	浜田部落農会
4: 家業・役職等	
5: 地名	摂津国武庫郡浜田村／兵庫県武庫郡浜田村／武庫郡大庄村浜田／尼崎市浜田／尼崎市浜田町ほか
6: 行政区分	幕府領／尼崎藩領／兵庫県第7区／西新田組戸長役場／大庄村／尼崎市
7: 歴史	浜田村は、市域西部、蓬川上流に位置する。史料上の初見は建永2年(1207)で浜田郷とある。中世には東新田とともに浜田荘の荘域であった。近世初期には幕府領、元和3年(1617)尼崎藩領となった。村高は慶長10年(1605)に533石余、天保5年(1834)に553石余とある。天和・貞享年間(1681～1688)には家数53軒、人数317人、天明8年(1788)には47軒、197人であった。水利は大島井組に属し、大島井は旧浜田荘2か村(浜田・東新田)と旧大島荘4か村(今北・東大島・西大島・西新田)で構成。氏神は松原神社(近世には牛頭天王社、近代には素盞鳴神社、のち現社名に改称)、寺院は臨済宗妙心寺派起興禅寺・浄土真宗本願寺派浄専寺。
8: 伝来	市史編集室時代に調査済みであった本文書群を、平成3年に浜田部落農会が史料館へ寄託。本文書群は庄屋引継文書だったが、のちに農会が同地の浄専寺に保管を依頼していたものである。
9: 史料入手先	浜田部落農会
10: 点数	197点(目録件数104件)
11: 年代	寛文11年(1671)～昭和38年(1963)
12: 構造と内容	本文書群は、近世から近現代における①浜田村の土地・貢租、②水利、③浜田村氏神である松原神社の関係史料などからなる。 ①は、近世については検地帳・名寄帳・地子改め帳・免状などがあり、近代については、地租改正、明治末～大正初期耕地整理、大正末期の阪神国道建設用地に関する史料などがある。 ②は、近世の大島井や浜田川等の水論、大正末～昭和初期の六樋合併関係の史料等がある。 ③は境内地払い下げに関わる書類、境内地実測図などである。
13: 関連史料	寺岡得夫氏文書
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	河野未央

本概要は、史料整理担当者森下徹氏の整理結果報告をもとに三浦寿代が作成しました。